

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域医療連携室までFAXで送信してください。



②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。



③患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等



④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券



..... 予約受付先

●京都市立病院地域医療連携室

TEL (075)311-5311(代) (内線2113)

FAX **(075)311-9862(専用)**

●事前予約医療機関専用電話

(075)311-6348

事前予約受付時間(日曜・祝日を除く)

平 日/8:30~20:00(木曜日は17:00まで)

土曜日/8:30~12:00

FAXは、24時間お受けしています。

地域医療連携相談業務

平 日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター 電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。

※担当医師の指定、検査の予約はできません。

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただきます。

- ・事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・診察券 ※初診でもご予約可能です。



②患者さんから『事前予約センター』へお電話いただきます。

専用電話番号 **(075)311-6361**



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- ・患者さんのお名前(漢字・ヨミガナ)
- ・生年月日・性別
- ・ご連絡先(電話番号等)
- ・紹介元医療機関名・予約診療科



③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- ・事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、是非ご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院

地域医療連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2115) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域医療連携室直通) 075-311-6348

<http://www.kch-org.jp/>

京都市立病院

連携だより

vol.27
平成30年1月

- 皮膚科のご紹介
- 感染対策リンクナースは院内感染管理の要
- 多様化する健診のニーズに答えて
- 紹介患者様診療・検査事前予約ご利用のご案内

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

皮膚科のご紹介

はじめに

当科では、病診連携・院内連携を大切にして、地域の基幹病院として皮膚疾患全般に対する診療を行っています。皮膚疾患は、アレルギー性疾患・アトピー性皮膚炎・乾癬などの角化症・水疱症・感染症・皮膚腫瘍など多岐にわたります。これらの疾患に対し標準治療が提供できるよう精進しています。

基本診療方針

1. 皮膚疾患全般に対応した診療
2. 豊富な経験と適切な検査に基づく正確な診断
3. 各種ガイドラインを参考にした標準治療
4. 地域がん診療連携拠点病院における皮膚がん診療
5. 地域医療機関との密接な連携

診療体制

本年4月に、竹中医師が京都府立医大皮膚科より部長として着任しました。常勤医は、竹中医師（皮膚科



専門医、皮膚悪性腫瘍指導専門医）、奥沢医師（皮膚科専門医）、塩見医師（皮膚科専門医）、山本医師の4名です。他に4名の非常勤医師が外来診療を行っています。

診療内容

皮膚疾患全般をカバーする診療を行っています。特に、皮膚アレルギー性疾患の原因検索、入院加療の必要な重症皮膚感染症、手術療法の必要な皮膚腫瘍などの診療に力を入れています。

① アレルギー性疾患

接触皮膚炎・アナフィラキシー・薬疹などのアレルギー性疾患に対しては、パッチテスト・プリックテストなどの検査により原因検索を行っています。アトピー性皮膚炎に対しては専門外来を設け、スキンケアなどのきめ細かい生活指導を行っています。また、通院で軽快しない方や、急に症状が悪化した方には、入院治療を積極的に行っています。

② 乾癬

近年、乾癬が、肥満・高血圧・高脂血症・高血糖などのメタボリック症候群の危険因子であることが知られてきました。メタボリック症候群では、動脈硬化が過度に進行し、心筋梗塞や脳卒中などの脳心血管疾患のリスクが高まります。必要に応じて検査を行い、内科と連携して診療しています。

③ 皮膚感染症

皮膚感染症には、細菌・抗酸菌・真菌・ウイルスなどさまざまな病原体によるものがあります。各種の培

皮膚科・形成外科

	月	火	水	木	金
4診	山本		奥沢		谷口
5診	塩見	伊藤	竹中	尾藤/山田	山本
6診	奥沢	塩見	山本	山本	奥沢
7診	竹中	奥沢	塩見	竹中	塩見
午後	パッチテスト			アトピー外来	
形成外科外来	形成外科外来				形成外科手術

養検査・抗体検査などによる正確な診断および薬物療法・温熱療法・手術療法などによる適切な治療を行っています。重症の蜂窩織炎・壊死性筋膜炎や带状疱疹などでは、迅速な対応を要しますので、入院加療を行っています。

④ 皮膚潰瘍

皮膚潰瘍では、末梢動脈疾患（PAD）や糖尿病によるもの、肥満・静脈瘤などを背景にした静脈性のもの、さらにはリンパ浮腫に起因するものなど、さまざまな原因があり、病態に応じた指導・治療が重要です。植皮術などの手術による治療も行っています。必要に応じて、他科と連携して診療しています。

⑤ 皮膚腫瘍

何よりも正確な診断が必要です。経験豊富な皮膚科医による診察、および超音波検査・CT検査・PET検査や皮膚生検など必要に応じた適切な検査により、治療方針を決めています。



ダーモスコピー検査（拡大鏡）

当科では、デジタルカメラを使用したダーモスコピー（拡大鏡）による皮膚腫瘍の診断を行っています（左・下図）。粉瘤などの良性腫瘍では、多くの場合に日帰り手術が可能です。高齢化社会を背景



基底細胞癌のダーモスコピー所見

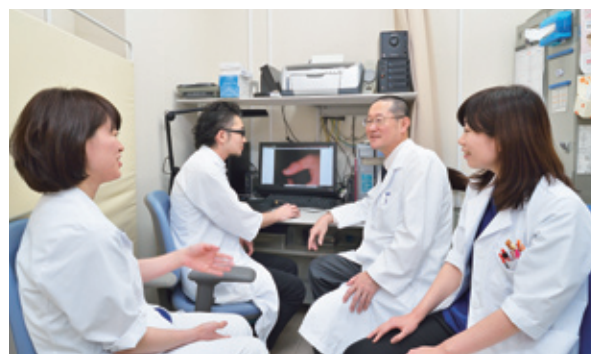
に皮膚がんが増加傾向にあります。有棘細胞癌や基底細胞癌などの皮膚がんは、切除術や植皮術などの手術療法を行います。症状によって、化学療法（抗癌剤）、放射線療法、外用療法などを選択します。

診療実績

2016年度の診療実績は、以下の通りです。

- 外来患者数：1日平均87.5人。初診患者数；年間1,265人、紹介率；67.6%。
- 入院患者数：1日平均8.2人。年間265人、平均在院日数；9.9日。
- 手術件数：年間337件（入院手術46件、日帰り手術291件）。

2017年度に入りまして、入院患者数および手術件数が増加しております。



カンファレンス風景

おわりに

平素は、地域の医療機関から多くの患者さんを紹介して頂いております。この場をお借りして深謝申し上げます。また、逆紹介を積極的に行っていますので、密な連携ができればと考えております。今後とも、どうぞご指導の程よろしくお願い申し上げます。

感染対策リンクナースは 院内感染管理の要

看護部 感染管理認定看護師 村上 あおい

2011年から、感染管理センターやICT（感染制御チーム）と連携して部署の感染対策を推進する看護部感染対策リンクナース会が発足しました。全ての病棟、NICU、救急室、手術室、血液浄化センター、外来部門を含めて18名のリンクナースが配置されています。リンクナースは患者さんに一番近い存在であり、感染から患者さんを守るための方策を、新しいエビデンスに基づき実践、指導する役割を担っています。

感染対策リンクナース会は毎月会議を開催し、ICTからの情報共有、サーベイランスのためのデータ収集と結果報告、症例ディスカッション、院内ラウンドなどを行っています。

なかでも特に強化している活動は手指衛生の推進です。毎月、手指消毒薬使用量を計測し、1日に1人の患者さんに対して行う手指消毒の回数を算出しています。さらに遵守率を向上させるための新たな取り組みとして、WHOが推奨する『手指衛生5つのタイミング』を実際のケア場面で観察し評価する手指衛生直接

観察法を始めました。この手法により、検温やオムツ交換、回診やリハビリなど日常の診療ケアに関わっている職員の行動を観察し、『手指衛生5つのタイミング』の中で実施すべき手指衛生と、実施した手指衛生をチェックし、実施率を算出します。部署の特性により、実施率の高い職種や手指衛生のタイミングの傾向が明確になるため、手指消毒薬使用量と直接観察法の結果を基に、リンクナースが具体的なケア場面の中で手指衛生のタイミングを示して指導します。

また今年度から、転院や在宅へ戻る患者さんのCVポートや尿道留置カテーテル、経腸栄養法などデバイス管理、薬剤耐性菌保菌やHIV感染症に関わる感染対策として患者さんやご家族に合わせたケア方法の提供、転院先や介護職からの相談対応についてもリンクナースが指導しています。

今後も、リンクナース中心に手指衛生をはじめとする感染対策の更なる向上を目指し、患者さんや医療者を感染から守る病院づくりに貢献していきたいと思います。

感染対策リンクナース



小児科病棟

携帯用手指消毒薬も使っています



外科病棟

包交中の手指衛生観察



内科病棟

回診中の手指衛生観察

～安心して急性期治療を受けられる病院を目指して～

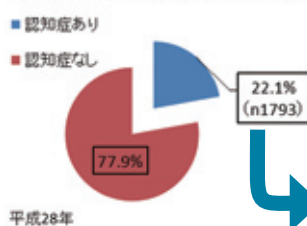
看護部 認知症ケアプロジェクト

当院で治療を受ける認知症患者さんの変化

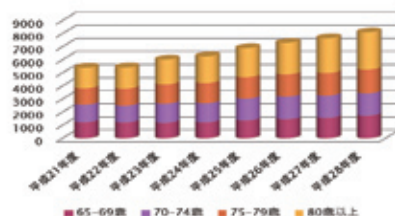
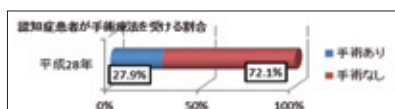
京都市の2017(平成29)年の総人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は27.5%であり、今後、高齢化率は2025(平成37)年までに2.9ポイント上昇して30.4%に達し、おおよそ3人に一人が高齢者になると見込まれます。

当院における65歳以上の患者さんも年々増加の傾向にあり、うち認知症を有する患者さんの割合は20%近くを占めています。また、その認知症患者さんの3～4人に1人は、手術等の侵襲的治療を受けています。

患者(65歳以上)のうち認知症を有する割合



当院 退院患者65歳以上高齢者数推移



急性期治療を受ける認知症患者さんに対するケア

当院では、平成28年12月、院内多職種による認知症ワーキンググループを発足し、院内職員の認知症対応力の向上に向け、ケアマニュアルの作成や研修会の開催等を行ってきました。看護部では、認知症患者さんのアセスメントや看護方法について研修を受けた看護師を病棟に2名以上配置し、またリーダーとなる看護師(リンクナース)を選出しました。リンクナースは、各部署の事例を元に、よりよいケアの提供に向けた検討を行い、その結果を部署へフィードバックをしています。

認知症の患者さんにとって入院して治療を受けるということは非日常のことであり、情報処理、判断が上手くできないまま外部環境に適応しようと、不安やストレスからBPSD(興奮・不眠・暴力・徘徊など)が出現・悪化する可能性があります。そこで、部署では、患者さんが安全に急性期治療を受けるために、パンフレットを用いて手術の流れを説明したり、術後ドレーン挿入のイメージができるように写真を用いて説明しています。筋力低下や慣れないベッドによる転倒の防止をしたり、夜間に睡眠・休息がとれるよう昼間にデイルームで過ごしていただくなど、患者さんの個性に合わせ行動を妨げない対応

を検討しています。またせん妄の評価を行い、リスクが高い患者さんには自宅で使用していた時計やカレンダーを持参していただき、BPSDの緩和や発症を予防し、入院環境に少しでも早く馴染めるよう取り組んでいます。

認知症患者さんが、急性期治療を受け、持てる力を維持し、早期に元の生活に戻るためには、地域との情報連携が必要です。



爪切り前



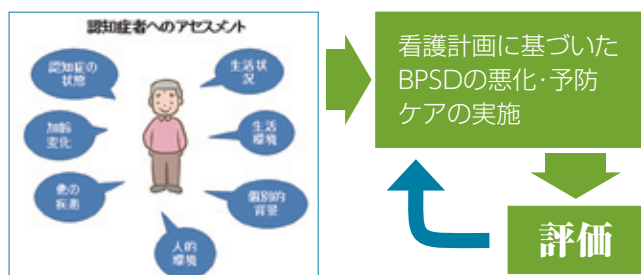
爪をきるだけで
姿勢が安定する



認知症患者さんの活動を抑制せず、安全に歩行できるフットケアラウンド



サーカディアンリズムを整えるために、昼間は陽の当たるデイルームで食事をしたり、他者との交流の機会を持っている



入院前の生活や習慣、病気の理解度など、認知症患者さんの細やかな情報をいただき、入院中のケアや退院後の患者さんの生活を見据えた支援に活かしていきます。退院前には、治療に伴う体の変化やADLの状況、今後予測されるリスクなど必要とされる情報を地域に提供し、患者さんがその人らしい生活を継続できるよう連携していきたいと考えています。

多様化する
健診のニーズに
答えて



健診センター
新谷 弘幸

超高齢化社会の到来に向けて人間ドック、一般健診、特定健診やがん検診などの受診者数は増加傾向にあります。京都市立病院健診センターにおいても、平成23年の独法化以降受診者数は年々増加しており、独法化前に比べると平成28年度の受診者数は約1.7倍となりました。また多様化するニーズに答えるため、従来の健診項目に加え、オプション項目を充実させることに力を注いでまいりました。その結果、PET-CT健診、脳ドック、肺がんドック、乳がんドックや腫瘍マーカー、骨密度測定などが新たに加わりました。さらに上部消化管の検査においても、胃十二指腸造影検査に加え、経口、経鼻上部消化管内視鏡検査がそれぞれ選択可能となっています。また腫瘍マーカーなどは検査体制を整えることにより受診日当日に申し出ていただいても可能となりました。以上により、これらのオプション項目を組み合わせることにより、各受診者の様々な希望に各々答えることができる体制となっています。

■ 当院健診センターの歴史

当院健診センターは平成4年に、当時は公立病院での併設は珍しかった時代でしたが、市民の健康増進に寄与する目的で、本館4階に創設されました。そして翌年には日本総合健診医学会による優良総合健診施設認定を受けました。内科診察や婦人科診察、レントゲン検査などすべての行程がワンフロアで行われ、健診当日に保健指導が行われる体制を整え、丁寧で、質の高い健診をめざした一日ドックとして提供してきました。独法化以降はドックに加え、生活習慣病予防検診や特定健診、乳がん市民検診なども積極的に行っています。

■ 当院健診センターの特色

1. 健診センター内でほとんどの検査が行われます。
2. 健診当日に担当医師が結果の説明を行います。
3. 半日で結果説明まですべてが終了します。
4. 各検査は専門医によるダブルチェックを実施するなど、精度管理の充実に努めています。
5. 二次検診が必要な場合、診療部門との連携により円滑に外来受診ができます。
6. 胃X線造影検査あるいは経口、経鼻上部内視鏡検査のいずれかが選択できます。



■ 健診の種類

半日人間ドック、脳ドック及び協会けんぽの生活習慣病予防健診などがあります。乳がん検診、子宮がん検診には専門医による診察、検査が含まれます。また平成25年度からPET-CT健診を実施し、さらには肺がんの早期発見に特化した肺がんドックコースやマンモグラフィー、乳房超音波検査を併用した乳がんドックコースを新規に開設しがんの早期発見に努めています。

■ オプション検査

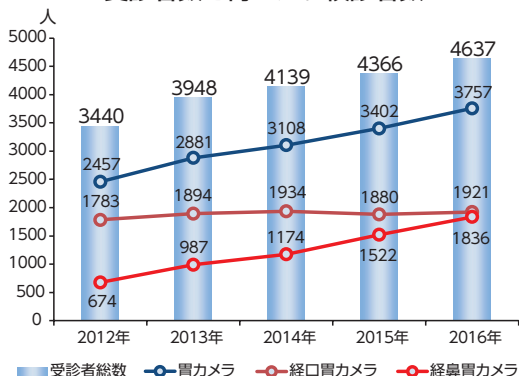
オプション検査項目としてはPET-CT検査、脳ドック（頭部MRI・脳血管MRA検査）、肺がんドック（胸部CT）、腫瘍マーカー検査（PSA・AFP・CA19-9・CA125）、甲状腺機能検査（FT4・TSH）、ヘリコバクターピロリ菌抗体検査、骨密度測定（腰部・大腿骨の2か所を測定）、マンモグラフィー、乳房超音波検査、子宮頸部細胞診があります。胸部CT検査は低線量CTで実施しています。

■ その他

毎月第1木曜日には女性を対象としたレディースデイを設けています。

■ 実績

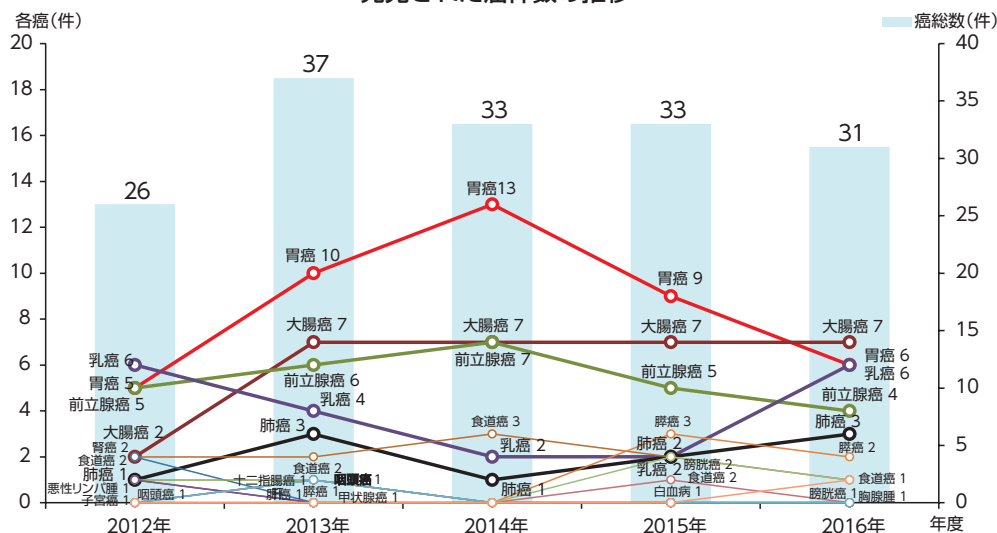
受診者数と胃カメラ検診者数



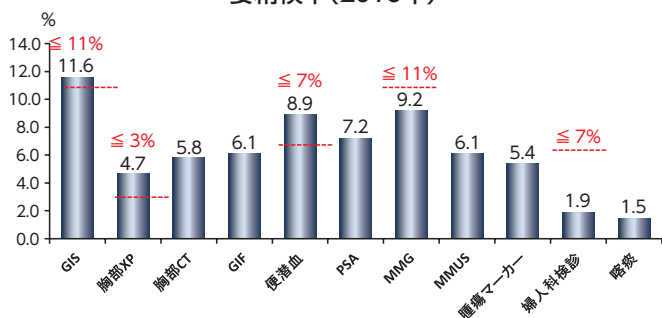
オプション検査

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
脳ドック	306	341	331	347	380
肺癌ドック	40	32	58	63	69
骨密度	120	162	149	146	146
乳房マンモグラフィー	797	813	810	801	891
乳房超音波検査	336	364	430	474	570
PETCT	0	19	13	21	22
腫瘍マーカー	2158	2420	2502	2475	2583
ヘリコバクターピロリ菌抗体検査			963	693	632
甲状腺機能検査			332	278	260

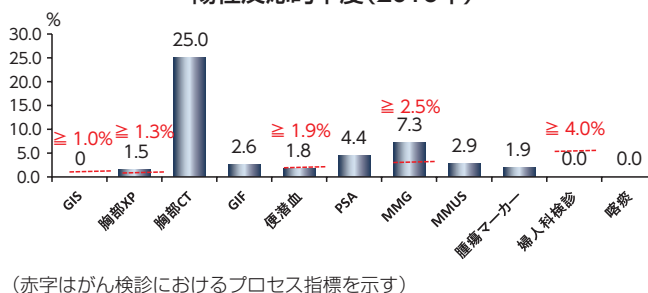
発見された癌件数の推移



要精検率(2016年)



陽性反応的中度(2016年)



(赤字はがん検診におけるプロセス指標を示す)

■ 最後に

当院は地域がん診療連携拠点病院であることから、健診センターではがんの早期発見に努めております。健診センターでは過去5年間で160例のがんが発見され、そのうち早期がんは74%を占めていました。各検査の精度をさらに高く維持し、早期がんの発見に努めたいと考えています。また生活習慣病についても積極的に関与し健康長寿のまちづくりに貢献したいと考えております。